

保健室にくる子どもたち

大道 由紀子

1. はじめに

体育に関することで何か一つ自分が知りたいことを深く調べようと思った時、私は将来小学校の教師になった時に生かせることを調べたいと考えていた。

そんな中、教育実習に行くと、毎日のように誰かが保健室に行っていることに気付き、私はふと子どもたちと関わっていくためには勉強に関することだけではなく、子どもたちの健康面についてきちんと把握することも大切だと感じたのである。

そこで私は保健室について深く知ることから、教室とは違う子どもの内面を知ることができるのではないだろうかと思い、保健室の実態を調べていくことにした。

2. 研究方法

- ・教育実習校による全学年アンケート調査
- ・教育実習校の保健室にある参考資料
- ・インターネット

3. 研究結果と考察

【考察の流れ】

- 子どもの実態を知るために子どもにアンケート調査をし、子ども自身の保健室に対する意識調査をする。
- 保健室の記録を基に来室状況を調べ、それらの要因について曜日別、月別に深く調べていく。
- 保健室の記録より主な外傷や疾病を調べ、それを基に学童期に多い病気の症状・原因・対処法・予防法を詳しく調べる。
- 2001年度と2002年度を比較して、週休2日制になって変わったことなどを考察する。

Ⅰ. 子どもの意識調査

教育実習校に協力していただき、アンケート《資料③》を実施した。

【アンケート実施時の人数】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男	21	18	19	27	20	25	130
女	18	27	21	21	27	31	145
計	39	45	40	48	47	56	275

《資料①より》

★低学年から中学年ではほぼ半数以上が保健室に行かない、または行く回数が少ない。

★高学年になると保健室に行く回数が確実に増えている。

★男女別で考えると、全体的にみて女の子の方が保健室に行く回数が多い。

《資料②より》

★全体の約7割は調子が悪い、またはけがといった何らかの疾病・外傷で行っている。

★男女別で考えると女の子は疾病、男の子は外傷が多い。

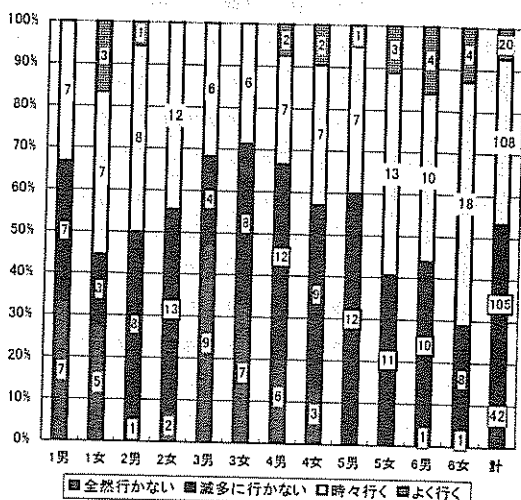
★低学年では保健室は病気・けがをした人が行くところという意識が強いが、高学年になると保健室に遊びに行ったり話をしに行くといった、安らぎの場として活用されている傾向がある。特に女の子にその傾向が強いようである。

★相談をすることが多いのは高学年の女の子である。

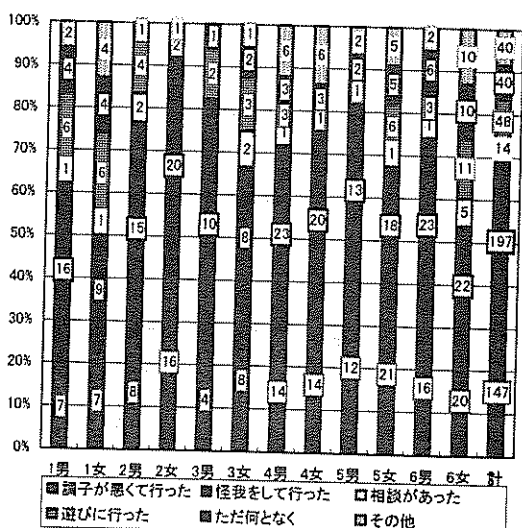
★男の子と比べて女の子の方が保健室に行く回数が多いのは、友達の付き添いで行くことが多いからである。

これらの結果より考えられることは、中・高学年の女の子が保健室によく行くのは、やはり男の子よりも早く思春期を迎えるためではないかということである。それと同時にその分、自分の体調の変化に敏感ということ

資料① 保健室に行く頻度



資料② 保健室来室理由



でもある。

次に、全体的にみて子どもにとって、保健室は学校の中で一番安心できる場所になっているということである。調子が悪い、けがをしたといった子どもならずとも誰しもが不安になる時はもちろん、相談や遊び、ただ何となくといった理由が多いことからわかるように、その不安を心身ともに解消できる場所が保健室というわけである。

また、これは保健室とは直接関係ないことだが、保健委員もしくは係以外で保健室に付き添いで行くのは、学年に関わらず女の子が多いことから、小学校ですでに女の子は特有のつながり意識を持っているということもわかる。

ただし、上記の結果は学校や養護教諭によっても違うのだから、すべての学校に当てはまるわけではないということを常に頭に入れておかなくてはならない。

例えば、養護教諭が用のある時以外は遊びに来てはいけないというような雰囲気をつくっていたとしたら、きっと子どもは気軽に相談しに行けなくなるだろう。ふと立ち寄れるような気軽さがあるからこそ、友達や担任に相談しづらいことでも養護教諭に話せるのである。

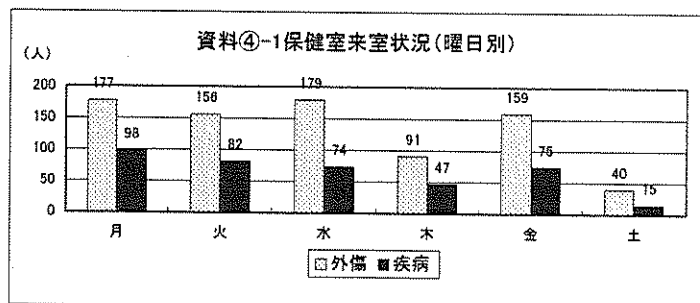
また、落ち着いている上記の学校でさえ、さぼる為に保健室を利用している子どもが少なからずいたのだから、もし学校全体が荒れていたり、学級崩壊などが起きている場合には、こういった子どもが増えることは容易に推測できるであろう。

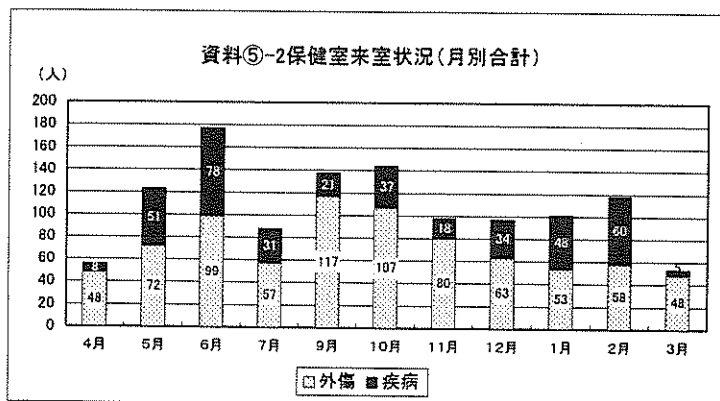
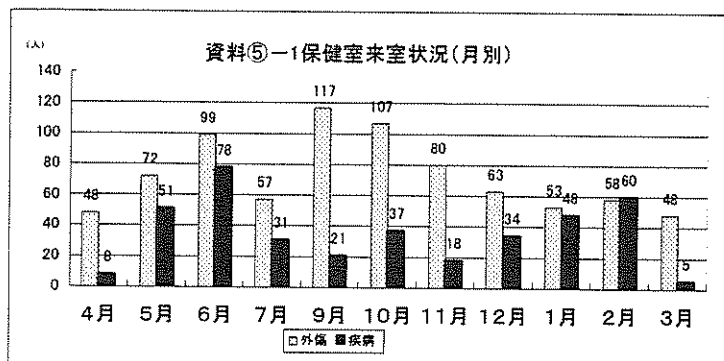
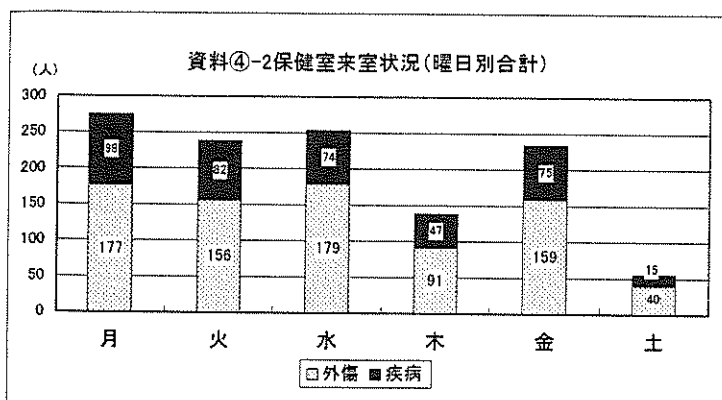
資料③(略)

II. 保健室

子ども自身にアンケートを取ることで、子どもたちの保健室に対する深層心理を調べることができた。

では現場である保健室には、どのような理由でどのくらいの人数が訪れているのであろうか。ここでは保健室の記録から実状を調べていく。





資料⑥時間割

月～水：1、2年を除くほぼ全学年6時限

木：全学年4時限

金：全学年5時限

土：全学年3時限

≪資料④－1より≫

★外傷は平日では月曜日と水曜日が多く、木曜日が急激に少なくなっている。

★疾病は月曜日が一番多く、そこから徐々に少なくなり木曜日に急激に減るが、金曜日にまた増える。

★外傷と疾病の差より、水曜日は外傷で訪れる子どもが多い。

≪資料④－2より≫

★全体的にみて、来室人数は月曜日が一番多く、火曜日、水曜日、金曜日はほぼ同数で、木曜日は極端に少なくなっている。

≪資料⑤－1より≫

★外傷は4月から6月に向けて増えていき、7月に一度減るが再び9月に急激に増え、そこを頂点に3月に向けて徐々に少なくなっていく。

★疾病は4月から6月に向けて急激に増えていくが、7月に一度減ると11月まではほぼ横ばい状態である。しかし、12月を境にまた徐々に増えていく。

★外傷と疾病を比べると、たいていどの月も外傷が圧倒的に多いのだが、5月と6月、12月から2月はその差が少なく、1月においてはほぼ同数、2月においては逆転している。

≪資料⑤－2より≫

★3月と4月は他の月と比べて極端に少ない。

★4月から6月に向けて急激に増えていき、7月に一度減るが9月にまた増え、それを境に12月まで徐々に減っていく。そして1月からまた徐々に増えた後、3月は4月とほぼ同じ位少なくなる。

これらのことをまとめると、まず月曜日は休み明け、水曜日は週の中間で気が緩みがちといった理由で、けがをしやすと思われる。特に、水曜日においては気の緩みからくる注意力散漫などで、圧倒的に病気よりも多い。

そして外傷・疾病共に木曜日が極端に少ない理由としては、資料⑥からもわかるように4時限

だからということ、週の半分以上が過ぎたことで、あと少しだという気持ちになれるからであろう。

また、来室人数が一番多い月曜日は、やはり前日の遊び疲れが残っていたり、生活のリズムが崩れてまだ学校のリズムに慣れていなかったりといった理由から、多くなるのではないだろうか。

次に、月別で4月が外傷・疾病共に少ないのは、新学期で気分一新し、なおかつ身も心も緊張感をもって何事にも取り組んでいるためだと思われる。しかし、次第に学校や友達にも慣れ始め、緊張感が解けてくる5、6月は、気が緩んで注意力散漫になったり、4月の緊張感から開放されたことで疲れが急に出て病気になりやすいため、急激に増えているのだろう。

7月に一度減るのは、学校に行く回数が少ないこともあるが、もうすぐ夏休みということで張り切っているからということが、一番の理由ではないだろうか。

そして9月に外傷がピークを迎えるのは、曜日別の月曜日について論述したのと同様に、休み明けによる疲れ、気の緩み、生活リズムの変化などに対応しきれないということ、そして運動会があるためにけがをしやすいためであろう。

それ以降は徐々に外傷・疾病共に落ち着いてくるが、12月頃から疾病が多くなり始めるのは、やはり寒さが原因と思われ、1、2月がピークを迎えるのは、インフルエンザの蔓延によるものである。

Ⅲ. 子どもたちのけが・病気

Ⅱより保健室の実状を知ることができたが、これだけではどういう時期にどのような病気が多いのか、詳しく知ることができない。

そこでここではまず、保健室の記録から保健室に来室する原因（外傷・疾病のみ）を詳しく調べ、それらの中で特に多いものや、特定の時期だけ多く発生しているものについては、その原因や指導法などを深く追求していこうと思う。

【主な外傷】（略）

【主な疾病】（略）

≪時期に関係なく多いもの≫

【病名】

(1) 症状 (2) 原因 (3) 対処法 (4) 予防法

(中略)

≪特定の時期だけ多いもの≫

【病名】

(1) 発生時期 (2) 症状 (3) 原因 (4) 対処法 (5) 予防法

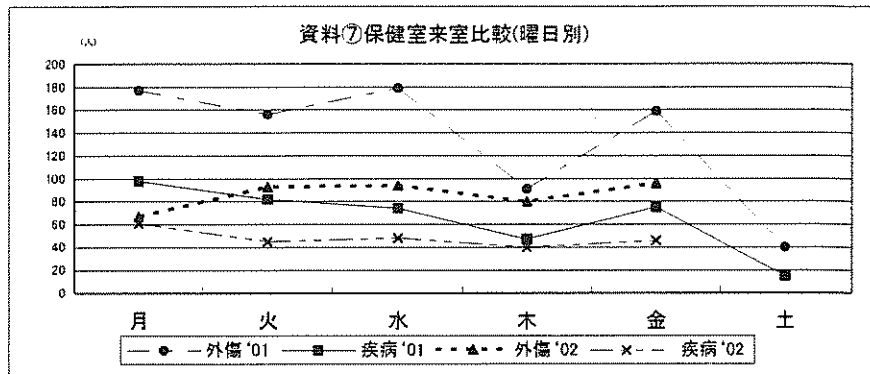
(中略)

IV. 週休2日制になって

これまで調べてきたのは2001年度のデータを基にしていたのだが、2002年度から完全週休2日制が導入されたことによって、これらのデータに何らかの変化はあるのだろうか。

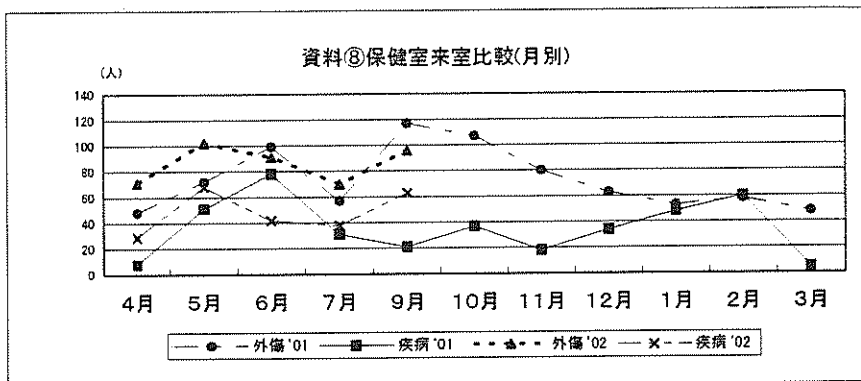
そこで、この章では2001年度と2002年度を比較して、週休2日制になって変わったことがあるのかどうかなどを考察する。

※2002年度のデータは9/20まで



★2002年度は水曜日にむけて外傷が増えてはいるが、全体的に見ると、大きな変化はあまりみられない。

★疾病はほとんど変化はみられない。



★外傷・疾病の一度目のピークが、2001年度は6月なのに対して、2002年度は5月である。

★外傷・疾病ともに2001年度より2002年度の方が多くなっている。

これらのことより、週休2日制になっても曜日別では変化はあまりみられないのに対して、月別で考えると2002年度の方が明らかに多くなっていることから、やはり毎週2日続けて休むという週休2日制度に慣れていないため、生活リズムが崩れたり、2日間で旅行などに行き、疲れが残っていたりしたことが保健室来室数を増やしている主な原因ではないかと思われる。

しかし、6月にはだいぶ減ることからもわかるように、徐々に週休2日制に慣れ始め、体調管理などがうまくいっているように見受けられるので、週休2日制による影響はあまり心配ないのではないだろうか。

4. まとめ

以上で保健室に関する考察は終わりである。最後にまとめとしてこれまで考察してきたことを最大限に活用できる方法はないかと考えたところ、教授にアドバイスをいただいた。それは時間割編成である。調べてきたことを踏まえた上で編成すれば、けがなく、集中力になるべく途切れないような効率の良い時間割編成ができるのではないかということである。そこで私は教育実習させていただいた二年生の時間割を、この卒論のまとめとして考えようと思う。

【2年2組時間割】

	月	火	水	木	金
1	音楽	国語	生活	国語	道徳
2	生活	図工	生活	算数	音楽
3	国語	図工	算数	体育	書写
4	算数	算数	国語	国語	国語
5	図書	体 算	学活		体育

※この時間割は、あくまで今回調べた結果に基づいた理想の時間割であり、実在の学校に適するために必要な細かい配慮などは加えられておりません

★月曜日と水曜日に外傷が多いのでけがしやすい教科（図工・体育）は他の日にした。

★木曜日は外傷が急激に少ないので体育を入れた。

★月曜日に疾病が一番多いので、遅れると厄介な図工をはずし、体育もはずした。

★月曜日の一時間目は落ち着きがないので、楽しみながら、なおかつまとめることができる音楽を入れた。

★落ち着いてくる火曜日の二時間目に図工を入れた。

★体育は準備に手間取るため大きい休みの後に入れ、体が起きていない一時間目は避けた。

時間割編成を作り終えて思ったことは、自分なりに工夫して作ったつもりだったのだが、結局もとからあった時間割とあまり変わらないものになってしまったということである。つまり、先生方はデータなどに頼らなくても、自分自身の今までの経験を生かして、一番効率の良い時間割を編成されているということになり、子どもに対する配慮はそんなところにもにじみ出ているのだなあ実感することができた。

また、今回の研究を通して、子どもたちの心と体、両方について深く知ることができた。特に子どもたちへのアンケートによる結果からは、私自身がまだ教師ではないため、子どもたちも成績など気にすることなく本音で書いてくれたことにより、興味深いデータが多く得られた。

これから先、がんばって教師になった暁には、ぜひ今回研究したことを生かして、子どもたちと関わっていきたいと思う。

最後にこの場をお借りして今回協力していただいた教育実習校の校長先生、教頭先生、養護の先生、各クラスの担任の先生方、そして全学年の子どもたち、並びに卒業研究体育の教授、他すべての方々に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。